

栃木県芳賀町（国内 52 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 3 年 3 月 14 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、里山の丘陵部に位置し、付近は果樹や雑木林に囲まれている。
- ② 調査時、発生農場から約 1.1km の距離にあるため池ではコガモ等計 5 羽、約 1.5km の距離にあるため池ではカルガモ等計 9 羽の水鳥類が、発生農場から約 2.0km の距離にある遊水地ではオオバン 59 羽、コガモ 30 羽等、計 120 羽以上の水鳥類が認められた。
- ③ 当該農場には金網式の床で仕切られた 2 階建て構造のウィンドレス鶏舎 2 棟があり、このうち 1 棟は、内部が壁で区分され、2 鶏舎となっていた。発生鶏舎は農場奥側に位置し、発生時には、すべての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、過去 7 日間の発生鶏舎の 1 日あたりの死亡鶏は、4~13 羽で推移していたとのこと。
- ② 3 月 13 日、発生鶏舎の 2 階入口側の列の鶏舎中央やや奥側で、隣接する 2~3 ケージに渡って、同一ケージ内で 1~2 羽がまとまって死亡しており、発生鶏舎全体で 35 羽の死亡が確認されたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では専属の従業員 5 名のうち 2 名が鶏舎管理を担当していた。飼養管理者によると、毎日鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏の回収を行っていたとのこと。
- ② 鶏舎管理を担当する 2 名については、基本的には担当鶏舎が決まっており、発生鶏舎には担当者以外が入ることはなかったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、従業員は農場に入る際、農場専用の作業着、靴及び手袋に交換していたとのこと。また、各鶏舎に入る際は、専用の長靴と手袋に交換していたが、長靴の交換後、発生鶏舎に入るまでに屋外を移動していたとのこと。
- ② 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。
- ③ 飼養管理者によると、飼養鶏への給与水は井戸水を利用しており、塩素消毒及び濾過を実施していたとのこと。
- ④ 発生鶏舎からの鶏糞は、農場敷地内にある堆肥場に搬出し、堆肥化していた。堆肥場には防鳥ネットが設置されていたが、野鳥が侵入可能と思われる破損部があった。
- ⑤ 飼養管理者によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、農場敷地内の死亡鶏処理装置で処理していたとのこと。
- ⑥ 飼養管理者によると、ロットごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は鶏舎内の清掃・消毒を行っていたとのこと。
- ⑦ 飼養管理者によると、車両が農場敷地内に入出入りする際、入口に設置された動力噴霧器で消毒を行っていたとのこと。
- ⑧ 発生鶏舎であるウィンドレス鶏舎の構造は、鶏舎側面上部から給気し、鶏舎奥側の壁面に設置された換気扇から排気するタイプの鶏舎であった。給気口には金網が設置され、排気用の換気扇の外側には開閉可能な板が設置されていた。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場内ではキツネ、タヌキ、ハクビシン、カラス、スズメを見かけることがあり、農場の上空をカモが通過することもあるとのこと。調査時には、農場の上空にカラスを確認した。
- ② 飼養管理者によると、発生鶏舎内で定期的にネズミを見かけることがあり、ネズミ対策（殺鼠剤及び粘着シートの設置）を行っているとのこと。調査時にも、発生鶏舎内で、ネズミのものと思われる糞を確認した。
- ③ 発生鶏舎側面の壁面には、3.0cm 程度の隙間があり、小型の野生動物が侵入可能と考えられた。
- ④ 飼養管理者によると、鶏糞を搬出するベルトコンベアの発生鶏舎側の開口部は、運転時以外は板で閉じられているとのこと。
- ⑤ 発生鶏舎では、鶏舎から集卵用のバーコンベアが外へ出る開口部に隙間があり、小型の野生動物が侵入可能と考えられた。